

	学会・展示会名	大会長	会期 始	会期 終	開催形式	申込締切(予定)	料金 (税別)	出展企業数 (オンサイト(現地開催)実績)	出展企業数 (昨年度オンライン実績)	参加者数 (概数)	特長(一部学会HP内より抜粋)
☆☆	第6回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム	西原 広史(慶応義塾大学医学部)	5月29日	5月30日	オンライン開催	3月19日	¥150,000		4社	200名	当学会では、バイオバンク及びクリニカルシーケンスに関するシステムや技術についての最新の情報交換の場を提供することを目的として2015年に第1回シンポジウムを開催、昨年開催の第5回シンポジウム(福岡)では250名を超える参加者が集い、協賛・展示企業も40社を超え、年々この分野への注目と参加者の熱意が高まっていることが感じられます。
☆☆	第75回日本栄養・食糧学会大会	加藤 久典(東京大学大学院農学生命科学研究科)	7月3日	7月4日	オンライン開催	5月20日	¥100,000				日本栄養・食糧学会は、栄養科学及び食糧化学の基礎及び応用研究の進歩普及を図るとともに、同分野の情報を社会へ提供し、もって科学、技術、文化の発展と人類の健康・福祉の向上に寄与することを目的として設立された学会です。
☆☆	JAACCT(日本動物細胞工学会)	堀江 正信(京都大学放射線同位元素総合センター)	7月27日	7月28日	オンライン開催	6月18日	¥110,000		13社	200名	動物細胞工学は、生物学、農芸化学、細胞生物学、生物化学工学等、様々な学問領域から構成される学際領域です。動物細胞を対象とする科学と技術は、21世紀のバイオテクノロジーの発展と共に様々な分野に広がりをみせております。
☆☆	日本ゲノム編集学会第6回大会	中村 崇裕(九州大学大学院農学研究院)	6月16日	6月18日	現地開催	4月14日	¥250,000		23社	370名	ゲノム編集は、人工のDNA切断酵素を利用して、様々な生物において自在に遺伝情報を変化させることのできるバイオテクノロジーであり将来産業価値が高い分野です。一方で、ゲノムを改変した生物に関する倫理的な問題も存在し、そのスタンダードを構築する必要性が生じています。このような状況から、研究者および社会の要求を満たすための学会組織が必要と考え、同学会を立ち上げられました。
☆☆	第43回 日本生物学的精神医学会 第51回 日本神経精神薬理学会 合同年会	切方 浩(東京大学医学部精神神経科学講座)、 宮川 剛(藤田医科大学総合医科学研究所 システム医科学研究部)	7月14日	7月16日	ハイブリッド開催 (現地+オンライン)	3月31日	¥200,000				最新の脳科学を応用した精神・神経疾患の病態解明を通じて、有効性と安全性の高い医薬品開発を試み、さらに臨床研究へと展開することにより、実用性のある精神・神経疾患の薬物療法を確立することを目標としています。精神薬理学の学際的研究発表の場としてのみならず、臨床精神医学、薬理学、脳科学の研究者間、さらに最近では臨床薬剤師との情報交換と人的交流の場として活動を続けてきました。
☆☆	第21回日本蛋白質科学会年会	水口峰之 (富山大学学術研究部薬学・和漢系)	6月16日	6月18日	オンライン開催	3月19日	¥180,000		20社	800名	クライオ電子顕微鏡とX線自由電子レーザーは構造生物学の新たな時代を開拓しつつあり、単一細胞レベルの分解能で見る染色体構造の動的変化や、ゲノム解析は疾患の理解と予防、治療にあたる潮流となつつある。
☆☆	第42回日本炎症・再生医学会	田賀 哲也(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 幹細胞制御分野)	7月7日	7月8日	オンライン開催	3月12日	¥165,000		3社	330名	本学会は、基礎、臨床の様々な領域の研究者が「炎症」と「再生」をキーワードに一堂に会する学際的な大変意義のある学会であり、異分野の先生方の交流から新しい発想が導き出されることを望みます。(会長挨拶より)
☆☆	第44回日本神経科学大会	尾藤 晴彦(東京大学大学院医学系研究科)	7月28日	7月31日	ハイブリッド開催 (神戸国際会議場)	5月10日	¥250,000(現地) ¥165,000(オンライン)	80社122小間(2019年実績)	オンライン展示会は実績なし	3500	日本神経科学会は神経生理学を基盤に、神経化学会は神経化学を基盤にそれぞれの道を歩んできました。昨今、ヒト脳科学研究や基盤神経研究はおおきな広がりを見せ、生物学や医学、薬学はもとより経済学、心理学、情報工学、システム工学、教育学、化学を巻き込んで、脳科学から社会行動や経済現象のシミュレーションを行おうとしています。まさに脳科学、神経研究はボーダーレス化しています。このようなときに、多角的、学際的な学問の融合を目指しております。
☆☆	第73回日本生物工学会大会	上平 正道(九州大学大学院工学研究院)	10月27日	10月29日	オンライン開催	8月27日	¥110,000		45社	1500名	生物工学に関する学理及びその応用の研究についての発表および連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、生物工学に関する研究の進歩普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的とする。 <主な学問領域> 発酵工学、生物化学工学、生体情報工学、環境工学、酵素工学、動植物細胞工学、生体医用工学
☆☆	第94回日本生化学会大会	深水 昭吉(筑波大学生存ダイナミクス研究センター)	11月3日	11月5日	現地開催	7月30日	¥250,000	74社92小間(2019年実績)	9社	3,200名	生化学会は、生物分野の学会としては、最も歴史と権威がある学会の一つであり、タンパク質、脂質、代謝物、細胞などを中心に幅広く生命科学のウエット研究者が参集する学会です。2021年はバシフィコ横浜ノースという会議棟と展示棟が一つの建物内で行われ利便性が高くなることが考えられます。
☆☆	第59回日本生物物理学会年会	高橋 聡(東北大・多元研)	11月25日	11月27日	現地開催	8月31日(火)	¥275,000		7社	800名	生物物理学会はたんぱく質の構造解析・細胞の機能解析や可視化などについて技術メカニズムを理解した研究者が多く参加しています。
☆☆	第44回日本分子生物学会年会	塩見 美喜子(東京大学大学院理学系研究科)	12月1日	12月3日	現地開催 (バシフィコ横浜)	7月16日	¥355,000	208社360小間(2019年実績)	43社	7,100名	分子生物学に留まらず、ゲノム、タンパク質、細胞、疾患、バイオインフォマティクスなど、ライフサイエンス研究者が一同に集う、日本最大のバイオの学会です。

その他、受託数学会あり

※開催形式は2021年4月までの情報です。新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて変更の可能性がありますことをご了承ください。

☆☆印は㈱エー・イー企画が学会運営

★印は㈱エー・イー企画が展示会運営